



繪事比肩卷之中

○玄宗

○四皓

○七賢

○飲中八仙

○白猿

○仲國

○四天王

○新六歌仙

○八隱士

○酒吞童子

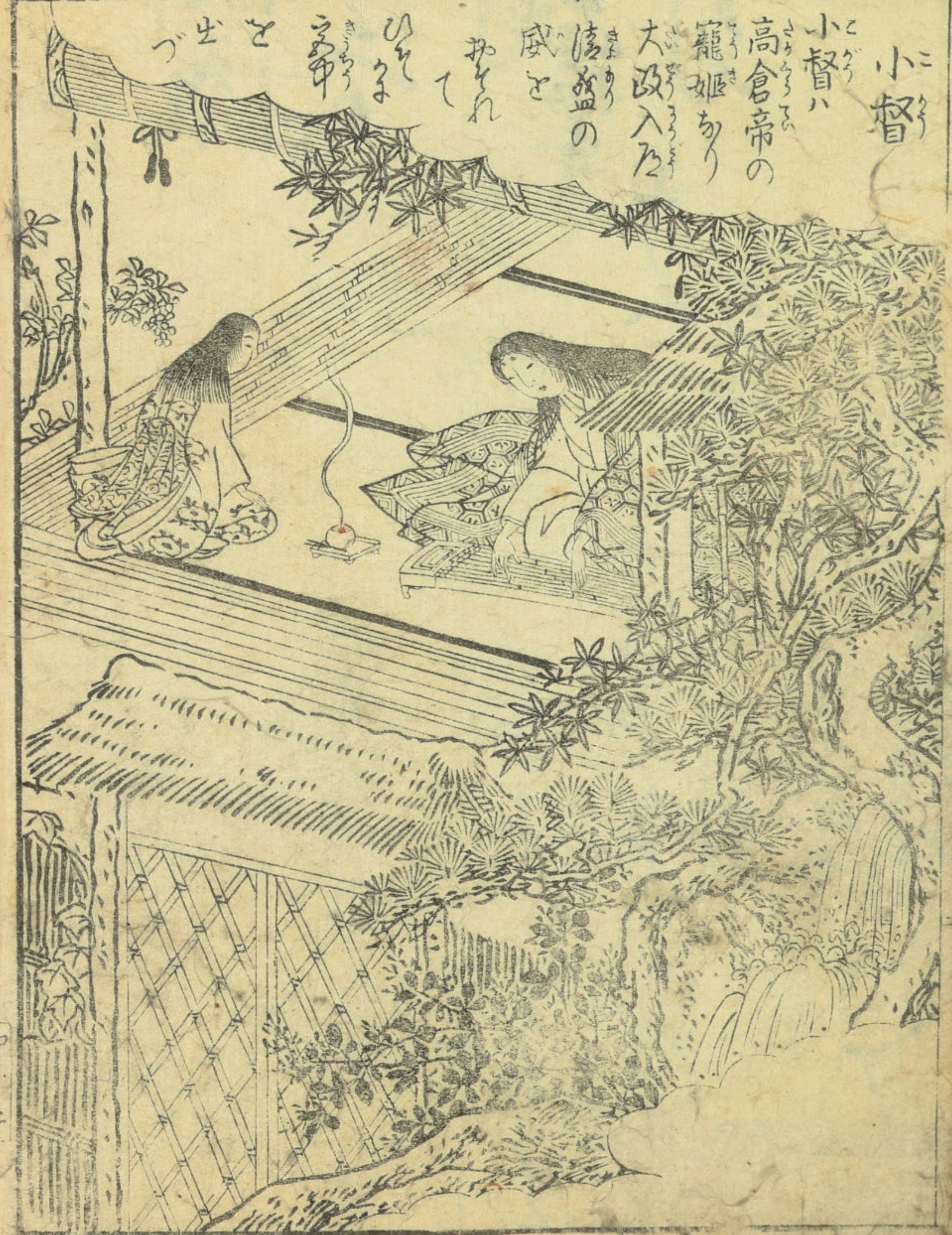
楊貴妃 やうきいひ
 名ハ太眞 なハたいまき
 蜀州の司戸 しゅうしゅうのしよこ 楊玄琰 やうげんえん
 が女 むすめ 唐の玄宗 たうのげんそう
 と寵 めい 一とく
 自ら玉笛を教え
 の艶色 えんしき
 六宮の第一 りくきゆうのだいいち





帝を
哀慕するもの

仲國を念ふ
小智の争の
音とさき



小督
高倉帝の
寵姫あり
大政入る
清盛の
威と
おそれ
ひな
さき
ぶと



四皓

東園公 綺里季
 角里先生 夏黃

公 是商山
 四皓

採芝の歌と

きと

のふし
 源若らり



源頼光四天王
 綱公時定光末武
 松老の近臣あり
 是四天王の
 ろめあり



七賢

嵇康

阮咸

劉伶

王戎

嵇喜

七賢

阮籍

山濤

向秀

嵇康

竹林

酒を

のこく

樂やう

新歌仙

後東極

あはれものいふ花のたぎ

まはれあま

花のゆり

善経

こころのむせの社のゆたは

つらくもとのみちのよき

俊成

まじり

半のまげうまれて

月まじり天乃かく山

家隆



定家

定家

天の京に

かりるもあも

輝く月のみちの

家隆

あはれ

あゆみ

その月を

西行

表のうき

秋を

後京極

俊成

慈鎮

西行

八隠士

山崎宗鑑ハ始常

徳院義尚公の侍童也後油と

貞室

松永貞徳ハ明心居士

と号し長頭九道遠軒圓陀麻呂と号す

貞室ハ洛人あり芳野の花を見く

これくともあり

長嘯子ハ若狭少將

勝俊あり剛髪一東山ハ藝居一老後西山



つる天哉翁と号せありと
不舉白葉あり
山とありとあり人の
心とありとありとあり

宗祇ハ連歌ヲ長せり
とありとありとありとあり

と薫む種玉菴と
号す

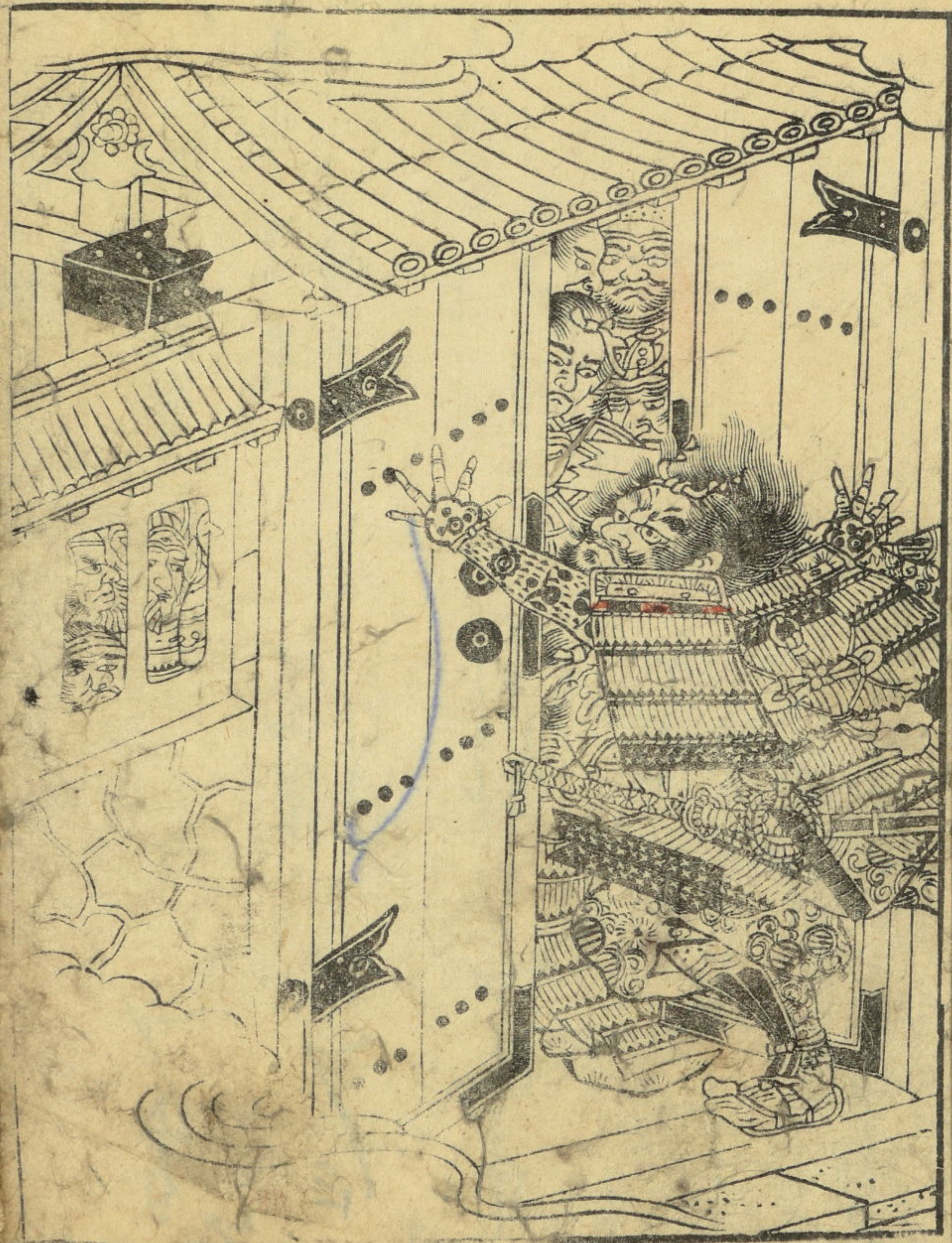
肖柏ハ宗祇の門人あり

又牡丹花と稱し酒香花
のこつと愛しく三愛記とつくせり

芭蕉菴桃青ハ伊賀の産あり始の
俗稱を松尾甚七郎といつ後菴号

油煙齋ハ京師の人あり鯛屋貞柳
といふ狂歌又名あり





朝比奈三郎義秀
 義秀ハ和田義盛ガ三男
 あり 和久の役ニ実効
 の中折の勢ヲお破
 敵庭ニお入ルキ
 向ふ敵
 海ノ海上
 深ク
 雨と
 あり

孔明
 蜀志曰孔明あつて
 時劉玄徳さびさう
 と顧と謀とさび孔明が功
 みあつて天子の位よのり孔明
 と丞相よ任ぢあり





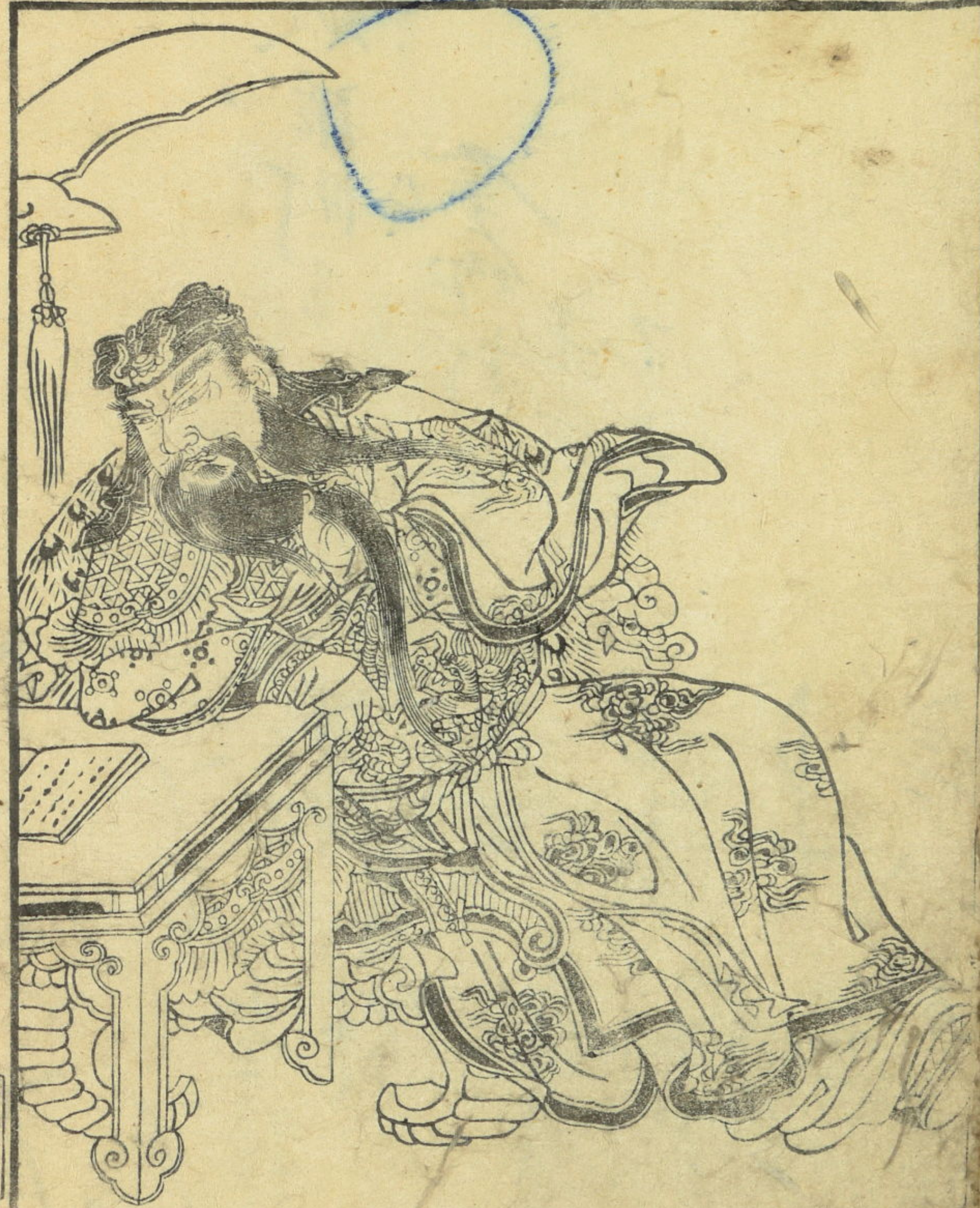
楠正成

名ハ多門玄清
河内の人宅彦

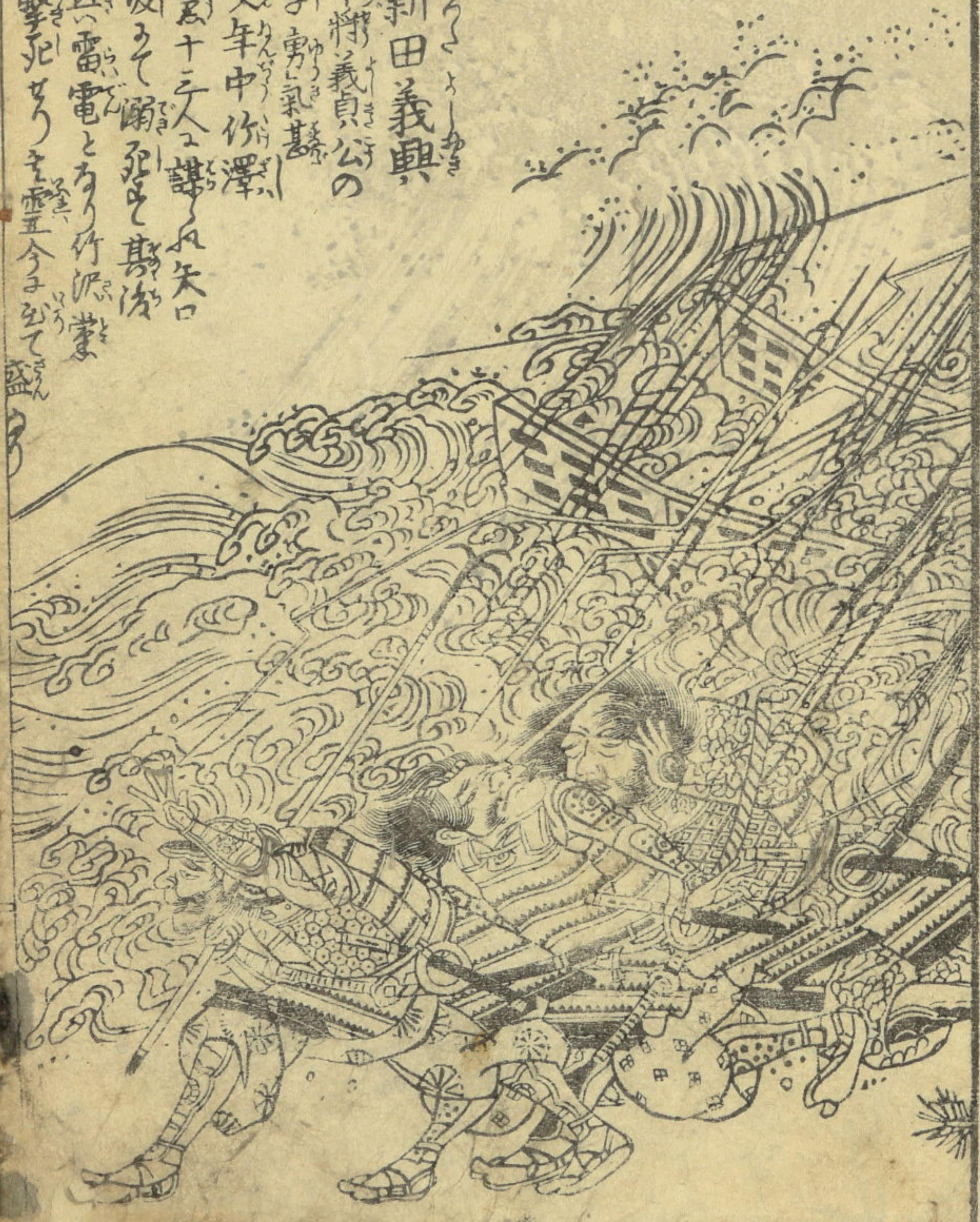
楠樹あり因氏とせり
智勇謀略古今の名將
あり元弘建武のる軍功
あり漆川におりて我死を
建武の年之位中おと



關羽
 字ハ雲長 蜀の
 玄德は 隨の軍功
 あり 其性 仁心よ
 一く 春秋を好
 一く 千歳の
 後 佛法を 講
 成 靈を 玉泉山
 あらうと
 ち利



新田義興
 左中將義貞公の
 庶子勇気甚
 延文年中作澤
 の堂十二人謀れ矢口
 の渡を隔死を其後
 美血の雷電となり竹沢
 を撃死せり至徳五年
 盛





下ノ七

鍾馗

逸史曰唐の玄宗
 元日の夜夢す所の
 小鬼帝の玉笛を
 盗む所破す帽と
 いふ蓋袍を穿る
 人ありと彼小鬼を捉へ
 斬りて是を命の帝名をとくハ
 終南山の進士天下の妖魔を除く
 とつり着させと玄宗吳道子
 といふ画工の命一其状を忍ぐセ



酒サカベ 顛テン
童ドウ子コ 八ヤチ 大ダイ 江エ
鬼オニ あり
源ゲン 賴ライ 州シュウ 光クワウ
退タイ 治ジ せり



源
賴
州
光

